

令和元年 第1回 根室市教育委員会 会議録

1. 公開案件の審議

(1) 議案第 1号 根室市教育委員会職名規程

結 論 原案どおり決定

(2) 議案第 2号 根室市教育委員会職名規程の施行に伴う関係規則の整理に関する規則

結 論 原案どおり決定

2. 非公開案件の審議（会議録省略）

(1) 議案第 3号 根室市スポーツ推進審議会委員の任命について

結 論 原案どおり決定

3. 意見交換

○目的

教育行政の課題についての情報共有、さらには頂いた意見を今後の事務を進める上での参考とするために行うもの

○テーマ

- ・根室市文化祭ステージ部門への『子どもの参加』と『市外居住者の参加』について、
絵画部門における『賞』の是非について

【 教育部長 】

今回の意見交換テーマは、「根室市文化祭ステージ部門への『子どもの参加』と『市外居住者の参加』について、絵画部門における『賞』の是非について」とする。根拠というところでは、文化祭の実行委員会規約で、市民のという表現があり、市民の文化祭であるという大前提がある。同じく規約の6条、規程に定めるもののほか実行委員会の運営に対し、必要な事項は実行委員長が定めるとなっており、この6条の取り決めによって、根室市文化祭に参加できるのは高校生以上の根室市民という取り決めがある。今回協議いただくのは、ステージ部門ということで、ステージ部門は10月から11月にかけて、演劇大会、詩吟、邦楽舞踊、音楽大会、最後がサウンドウェーブということで、このそれぞれのステージが週末ごと、土日ごとに入ってきて、ステージ部門が構成されている。ステージごとに特徴があり、舞台構成や地域の郷土芸能伝承等の理由により、市外出演者や幼児から中学生までの出演を認めているものもある。これらの対応にあたっては、部門ごとに参加資格者以外の参加承認申請という書類を提出いただいて、実行委員会の承認を得たうえで本番を迎えるということでやってきたが、参加団体から、毎年同じ書類を出すなら、ステージ部門に限っては年齢制限規定の緩和をしてほしいと申し出があった。一方で年齢制限規定を完全に外してしまうと、文化祭のレベルが下がるのではないかという意見もあり、毎年、文化祭の実行委員会で議論されている。様々な意見がある中で、全ての部門に共通するのが、高齢化による出演者の減少というところがあり、どんな歴史ある郷土芸能でも、伝承できなくなってきたり、高齢化や人口減

少を踏まえて考えていかなければならないという考えと、本筋を曲げるのは良くないという意見に分かれ、会議が進まないというのが最近の例である。一方で、文化祭総合展覧会では、陶芸、書道、フラワー、文芸には賞がある中で、絵画部門独自の判断ではあったが、絵画部門は一般の人が参加しにくく、賞があることが足かせになっているのではないのかという意見があり、一度それを外してやってみようということで賞をなくしたが、一般の方が鑑賞されるときに、賞があったことによって、どれが優れているのかという目安になっていたところもあり、賞については賛否両論分かれるところがあり、鑑賞者の立場でも、ステージをご覧になる立場でもかまわないので、こういう形がいいのではないのかという個人的な意見があれば参考として意見を伺いたい。

【 委 員 】

演奏者として根室市文化祭に参加しているが、楽曲によっては演奏者の人数が必要なものがあり、それは大人だけでは数が補えず、中学生以上に参加してもらってなんとか数が補えている。演奏者という観点から考えると、中学生以上を対象にするというのはありがたい判断だと思う。

【 教育部長 】

「高校生以上」という部分を「中学生以上」に変えてしまうという考えと、これまでどおり、参加承認申請書を提出いただいて、毎年承認を得るという2つの考えがある。

【 委 員 】

そう決めることで、申請書を出してもらう手間を省くことができるようになるということか。

【 教育部長 】

そうなるが、毎年申請書を提出いただくのか、中学生以上にすることで申請書が必要なくなるのか、どちらの方が良いか。

【 委 員 】

「高校生以上」というのを取り払ってしまうと、様々なことがなし崩しになってしまう気がするため、線引きをするためにも、申請者には手間にはなるがこれまでどおり申請書を出してもらおうほうがいいと考える。

【 委 員 】

文化祭を盛り上げるためにはいろんな人が出演できた方がいいだろうし、中学生が出演するとなれば保護者や親戚関係が見に来るようになるかもしれない。

【 委 員 】

「高校生以上」としないで、「根室市民」だけでいいのかなと思う。出演の可否については打合せ等を行うか、判断するポジションがあればいいと考える。例えば、先

日、根室市スポーツ奨励賞を受賞したダンスグループが披露しようとなったとしても、小学生だから出演できないとなってしまいが、素晴らしいものはたくさんの人に見てもらいたいと思う。素晴らしいものであれば、小学生からでもいいのかなと思うし、年齢の問題ではなく、内容なのだろうと思う。その判断をどこでするかという課題はあると思うが、この規定を決めたときと現状では人口も状況も変わっていると思う。

【 教育部長 】

出演者も高齢化になってきており、厳しい状況になっている。以前は数も多く、邦楽舞踊だけはステージを土日の2日間でやっているが、現状は持ちこたえるのが厳しくなっている。

【 委 員 】

そこも無理をして続けていくのか、1日間に短縮するのかということも検討していかなければならない。

【 委 員 】

絵画部門だけ賞がないというのはどういった理由があるのか。

【 教育部長 】

絵画部門は、一般の方も出品しやすいように、賞を一度辞めてみましょうとなった経緯がある。間口が広がるというのはよかったが、見ている市民から、賞があったほうがどの作品が優れているのかわかりやすい等の意見もあり、今年はまだ一度、絵画部門の賞の是非について検討すると話が出ている。

【 委 員 】

今年から賞を復活させるとなると、審査員の選考はどうなるのか。

【 教育部長 】

審査会員というのはこれまでの累積点数がいかされ、以前のままとする。また、出品していた方の累積点数もいかされる。

【 教育部長 】

ステージ部門については、ご意見いただいたとおりの枠を広げていければと思う。これからますます出演者の減少というのは厳しくなっていくと予想されるため、ご意見を参考に検討していく。